



知ってとくとく バジルの土壌病害1

はじめに バジルの病気の中でも、防除が難しいのが土壌病害。主要な土壌病害、メボウキ萎凋病とメボウキ菌核病を紹介します。豆知識！メボウキはバジルの和名です。

メボウキ萎凋(いちょう)病とは

メボウキ萎凋(いちょう)病

病原菌：*Fusarium oxysporum* Schlechtendahl:Fries
f.sp.*basilici*(Dzidzariya)Armst.&Armst.

病徴：茎葉の黒褐変、導管の褐変、萎凋、枯死

感染：土壌伝染、種子伝染



萎凋病感染株

症状 メボウキ萎凋病は糸状菌による土壌病害です。株全体が萎れ、葉が黄化します。地際の茎を切断すると導管が褐変しています。症状が重くなると枝枯れ症状、立ち枯れ症状となり、枯死します。

土壌伝染 メボウキ萎凋病は他の作物にはうつりません。しかし、耐久性のある厚膜胞子になり、植物残渣中や、土壌中で何年も生きているので、数年たってまたバジルを作付した場合は、発病する可能性があります。

種子伝染 メボウキ萎凋病は種子伝染します。萎凋病染株から採取した種子を使用すると萎凋病に感染する可能性があります。健全な種子を使用しましょう。



定植一ヶ月後のバジル。萎凋病に感染し、葉が凋れ、黄化・褐変している。



萎凋病感染種子から菌糸が伸びている様子



防除対策

他の作物を作付けする

土壌伝染しますが、他の作物へは感染しません。本病が発生した圃場では他の作物を作付けします

被害残さを圃場に残さない

作物残さは根から掘りとり圃場外へ持ち出して適切に処分しましょう。

土壌消毒する

汚染種子を使用しない 健全種子を使用しましょう。

種子消毒する

種子の内部まで菌が入り込むため、種子表面を消毒するだけでは不十分です。40℃で乾熱消毒により、種子の*F.oxysporum*消毒効果が認められ、発芽率の低下も認められない乾熱時間は、40℃ 24時間(予備加熱) + 70℃ 192時間おくことにより、種子消毒が可能です。(乾熱滅菌後の種子を長く保存すると通常より発芽率が下がりやすくなることがあります。)

表 汚染種子の乾熱滅菌効果

乾熱時間	調査種子数	<i>F.oxysporum</i> 検出数	検出率(%)
40℃24時間	100	45	45
40℃24時間 + 70℃24時間	100	26	26
40℃24時間 + 70℃48時間	100	19	19
40℃24時間 + 70℃72時間	100	15	15
40℃24時間 + 70℃96時間	100	9	9
40℃24時間 + 70℃120時間	100	7	7
40℃24時間 + 70℃144時間	100	6	6
40℃24時間 + 70℃168時間	100	3	3
40℃24時間 + 70℃192時間	100	0	0

*F.oxysporum*検出はF_oG1培地(西村;2001)の平板培地に種子をのせ、25℃で14日間培養



あいち病害虫情報

発生予察情報の提供 病害虫防除室では、毎月、月初めに**病害虫発生予報**、中旬に**最新情報**を出しています。防除の参考にしてください。E-mail配信ご希望の方は下記のアドレスまでご連絡ください。また、ウェブページ**あいち病害虫情報**もぜひご覧ください。

●お問い合わせについて

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫研究室 病害虫防除室

所在地: 480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

電話 : 0561-62-0085(内線472) FAX : 0561-63-7820

E-mail: byogaichu@pref.aichi.lg.jp

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/>